

甲相国境尾根縦走 (畔ヶ丸より入山)



高指山から山中湖・富士を望む

大室山（神奈川県）～三国山（山梨県）間の県境の尾根が、「甲相国境尾根」と呼ばれているようだ。東側の大室山周辺を除けば全体的に高低差が少ない尾根で、各ピークの標高は 1,100～1,300m 程で、厳しい登り返しもなく深山の縦走が楽しめる山域だ。ただし縦走なので公共交通機関を利用するため、日帰りでは厳しい。いつかこのルートを通走したいと思っていたが、泊まるとなると避難小屋を利用するしかないので躊躇していた。このGWにタイミング良く家族で山中に滞在することになった。そこで一日早く西丹沢から畔ヶ丸経由で出発し、甲相尾根縦走して合流しようかと考えた。

日 時：令和元年5月1日～2日 山域：西丹沢 メンバー：エミ

5月1日（1日目）

西丹沢VC 8：41—9：42 六善のタワ 9：50—11：15 畔ヶ丸 11：17—11：36 モ
ロクボノ頭 11：45—12：30 大界木山—12：50 城ヶ尾峠 12：55—13：39 中ノ
丸 13：50—14：27 菰釣避難小屋

5月2日（2日目）

菰釣避難小屋 6：15—6：35 菰釣山 6：40—7：13 ブナノ丸 7：18—7：50 油沢
ノ頭—8：12 樅ノ木沢の頭 8：17—8：37 西沢ノ頭—9：00 石保土山—9：35
大棚ノ頭分岐(山伏峠)—10:22 富士岬平 10:27—10:45 高指山 10:50—11:30 平野

西丹沢ビジターセンターには、予定時刻より少し早く到着した。VCで登山計画書を提出し、準備体操をして畔ヶ丸登山口の吊り橋を渡った。西沢の河原沿いを歩き、堰堤わきの階段を上がり、何度か木橋での渡渉を繰り返し上流へと登って行く。ここ最近雨が多かったので川の水量は多く、木橋のない飛び石の渡渉箇所があり、案外ここが本日の核心部かと、気合を入れ中州の石に飛び移った。背負ったザックの重さもあり緊張したが、無事着地成功して対岸の岩を登り、本棚分岐の最後の木橋を渡る。さわやかな溪谷を離れて右の尾根へと取り付く、あいにくぐずついた天候で湿度があり蒸し暑い。予報では小雨が降ったり止んだりだ

ったが、うまくすれば日中は降られずにすみそうな感じだった。

暑さで喉が渴いたので、水分補給を度々、水計画は 2.5ℓ ダイジョブか？

六善のタワを過ぎ、畔が丸山頂へ到着。

テーブルは満席、ちょうど昼食をとっ

ていた方に写真を撮って頂きそのまま

モロクボノ沢の頭へ向い休憩すること

にした。ここは白石峠への道の分岐点

で、ちょうどテーブルがあったのでゆ

っくりと休めた。



畔ヶ丸山頂にて

ここからがいよいよ甲相国境尾根だ。

ピークを越えて痩せ尾根を通過、これを

何度か繰り返した。中ノ丸を過ぎたあた

りから倒木が多く、今年の台風のつめ跡

だろうか、少し荒れている感じかした。

またこのあたりからガスが濃くなって

きて、視界は悪くなった。今にも雨が降

りそうな気配に、ブナ沢乗越までの最後



ガスにつつまれるブナ林

の登りを思わず脚を速めた。菰釣避難小屋へ到着してほどなく雨が降り始めた。菰釣避難小屋は割と新しく清潔な小屋だと感じた。先客もなく今夜は貸切の予感。雨はしとしとから本降り、やがて土砂降りになっていった。携帯は圏外で到着の連絡もできない。食事をしてシュラフにくるまり早々に就寝。夜半に目覚めた時は、もう雨の音は聞こえなかった。

4時半に起きて、外に出て雨上がりを確認し、お湯を沸かし朝食をとった。身支度を整え小屋の清掃をしてから出発。令和元年初日に宿泊した避難小屋を後にした。

菰釣山への急登は、昨日降った雨で道が悪く滑りやすそうなので、ゆっくり

と慎重に歩くことにした。また、この日も視界は悪く山頂から何も見えなのが残



きれいな菰釣避難小屋の内部



お世話になった避難小屋を振り返る

念だ。天気が良ければ富士と山中湖が見えるそうだ。一休みして東海自然歩道の表示板の左脇の尾根を下って行った。本日も静かな山歩き。いくつかの小ピークを越えて、ブナ林に行く。なかには崩壊してしまいそうな小ピークもあり、崩壊したらこの縦走路はどうなっ



菰釣山山頂の表示板

てしまうのか。小ピークにかろうじて残っている立木が倒れないよう祈った。ザレた尾根を辿り石保土山に到着。気温が上がってきた。相変わらず視界は悪い。ここで休憩。大きな鉄塔があらわれ単独の方とすれ違う。大淵ノ頭分岐で山伏峠から来たにぎやかなパーティーにも遭遇。高指山方向へ下ると足もとから大きな蛇が！すうっと逃げて行った。おそらくアオダイショウだ。もうそんな時期になったのかと驚いた。富士岬平へ到着するとカヤトの草原の向こうに山中湖と平野の景色が見えた。ここでトレイルランナーに出会った。先週ウルトラトレイル・マウントフジに挑戦していたが、荒天のためこのあたりの区間が中止になり、再トライしていた。さあ私も、元気を出してもう一走り、いや歩き……。目的地の高指山では雲が切れ、富士山と山中湖の絶景が広がっていた！ご褒美のような美しい富士に見守られながら平野に下り、石割の湯へとのおんびりと向かった。